第19回年次大会予稿

e-Knowledgeコンソーシアム四国(eK4)とは？

What is e-Knowledge Consortium Shikoku (eK4) ?

林敏浩*

Toshihiro HAYASHI*,

e-Knowledgeコンソーシアム四国

e-Knowledge Consortium Shikoku

〒760-8521 香川県高松市幸町2-1

E-mail: hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp

*連絡先著者 Corresponding Author

e-Knowledgeコンソーシアム四国は、四国の地域づくりを担う人材育成を目的に四国の8つの大学が連携した組織である。四国の自立的発展を促すために、四国各地で『四国は一つ』という意識を共有する協調的地域づくりを行う必要がある。そこで、本コンソーシアム設立された。各大学の特徴ある講義をe-Learningコンテンツとして提供し、上記の人材を育成する教育基盤『四国の知』を構築する。『四国の知』は四国の資源の魅力、ブランド、歴史、地勢、文化、伝統等の教養教育科目群『四国学』と四国の課題に取り組むために必要な専門教育科目群で構成される。コンソーシアムに集積された『四国の知』を活用して、四国の魅力を全国発信するとともに、四国への郷土愛と地域に根ざしつつ高い専門性を持つ人材を育成する教育プログラムを展開し、四国の自立的発展に貢献する。さらに、本プログラムで育成された学生が四国で活躍することで、四国の知力(知識・技能)の向上が期待できる。

e-Knowledge Consortium Shikoku is organized by eight universities in Shikoku for training their students as human resources for cooperative region. For promoting independent development of Shikoku, we must create cooperative region where the people can share the awareness “Shikoku is one community”. e-Knowledge Consortium Shikoku has been established on the background. Our consortium provides e-Learning contents of their characteristic lectures. Through these activities, e-Knowledge Consortium Shikoku constructs educational infrastructure called “Knowledge of Shikoku” in order to train the above mentioned students. “Knowledge of Shikoku” consists of two subject groups. The former group is for general education courses to educate attractiveness of resources, brand, history, topography, culture, tradition, and so on of Shikoku. The latter is for professional education courses to tackle the various issues in Shikoku. With using “Knowledge of Shikoku” integrated in e-Knowledge Consortium Shikoku, we can introduce the attractiveness of Shikoku to all over the country, provide characteristic educational programs to train the students who love Shikoku and have high level specialty, and then enhance independent development of Shikoku. In addition, we believe that the students trained by these programs participate actively in Shikoku and then the knowledge power in Shikoku can be improved.

1 はじめに

平成20年10月に、『四国の知』の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成のために、四国内の8大学がe-Knowledgeコンソーシアム四国（以下、eK4と呼ぶ）を設立した。四国における自立的発展を促す協調的地域づくりに携わる人材を育成する取組として、具体的には各大学の特徴ある講義をe-Learningコンテンツとして提供し、四国のための人材を育成する教育基盤『四国の知』を構築する。『四国の知』は四国の資源の魅力、ブランド、歴史、地勢、文化、伝統等の教養教育科目群『四国学』と四国の課題に取り組むために必要な専門教育科目群で構成される。連携大学は地域のニーズに応じて、eK4に集積された『四国の知』を活用して、四国への郷土愛と高い専門性を持つ人材を育成する教育プログラムを展開する。このプログラムで教育された学生が四国で活躍することで、四国の自立的発展に貢献するばかりでなく、四国の知力の向上が期待できる。

2 eK4の意義

四国の大学は、大学の設置地域に固有の課題に関わる教育研究を進めてきた。例えば、瀬戸内圏、うどん、希少糖、遍路歴史文化、阿波藍、LED、黒潮圏、地域史、地域産業とその構造、地域経済と情報技術等（図1）がある。個々の大学で行われているこれらの教育研究にもとづく教育科目を『四国の知』として集積し、これらの教育科目の間でそれぞれの特色が生かせる連携で教育を行う

と、四国全体の視点を持つユニークな教育プログラムを展開できる。『四国の知』による教育プログラムを連携大学が共同して全国発信することにより、四国外の人にも四国で学びたい気持ちを呼び起こし、四国の大学に入学を希望する学生の増加が期待できる。

四国はICTを利活用して授業配信を行う理想的な地勢サイズである。都市間交通の利便性などからICTによる授業（e-Learning、遠隔講義）が有効であるが、対面授業も併用できるのでICTによる授業の質の向上が図れる。その結果、個々の大学の対面講義とコンソーシアムのe-Learningを組み合わせた教育プログラムで、地域のニーズに応える多様な人材育成ができる。

e-Learning科目の受講を通じて、連携大学に在籍する四国内外の学生に四国地域の一員であることを芽生えさせるとともに、彼らの間にネットワークができ、『四国は一つ』という意識を育める。その結果、『四国の知』を基盤とする大学連携教育プログラムで教育を受けた四国内外の学生が四国に留まり、

図1 四国の魅力と特色ある教育研究

彼らが活躍することで、四国の知力（知識・技能）の向上が期待できる。

近年、大学には学士課程や修士・博士課程教育の他に、卒業後～40年間の教育を行うことが求められている。本事業の実施で各大学にe-Learningに係わる高度なノウハウが蓄積されるので、地域企業・地場産業や美術館・博物館等と連携したe-Learningコンテンツも作成できる。これらの豊富な、特徴あるコンテンツにより、地域に根ざした高い専門性を持つ人材育成ばかりでなく、有職社会人に対する高度専門知識の再教育、生涯学習教育等をe-Learningで提供できる。

3 四国学と学際的専門科目

四国における協調的地域づくり、農商工連携等を担う人材には、教養教育科目『四国学』に精通した上で、いろいろな課題を抱える地域の自立・活性化に取り組める学際的専門知識が求められる。これらの教育資源である『四国の知』を非同期蓄積型教育支援であるe-Learningコンテンツとして集積する。『四国の知』には、四国に関わる内容を扱う教養教育科目『四国学』と学際的専門教育科目群

図2 『四国の知』と教育プログラム

がe-Learningコンテンツとして集積される。

多様な地域のニーズに応える人材を育成するために、図2に示すように、『四国の知』に集積された『四国学』とそれぞれの人材育成に必要な学際的専門教育科目を核として、個々の大学で実施する教育科目を組み合わせた教育プログラムを構築する。これらの教育プログラムに共通する特徴は、地域の課題を四国全体の視点から捉え、『四国は一つ』を意識しながら協調的な地域づくりを担う人材育成を目指す。

4 eK4の体制

e-Knowledgeコンソーシアム四国の体制を図2に示す。コンソーシアムは運営委員会、企画委員会、二つの専門委員会（教育、システム）、研究プロジェクト委員会、広報委員会で構成される。事業推進のPDCAを行うため常設の外部評価委員会を設置する。事業の進捗状況に応じて、コンソーシアムと連携する地域サポーター会議、コンテンツ出版委員会なども設置する予定である。

運営委員会委員は連携大学の理事から成り、コンソーシアム運営の総括および外部評価委員会等との窓口となる。企画委員会は、コンソーシアム運営の実務、各種委員会の統括と調整、各種研修会・セミナー・講習会・シンポジウム等の企画および実施などを行う。

教育およびシステム専門委員会は、『四国学』、専門教育科目群を『四国の知』として集積する事業、非同期蓄積型のe-Learningおよび同期配信型の遠隔講義による教育支援およびそれに関わる事業等を取り扱う。四国学WGを経て平成21年度に設立した研究プロジェクト委員会は、本事業の教育基盤『四国の知』を構成する学問分野の共同研究を推進し、教育の質の向上を図る。

地域に根ざしつつ高い専門性を持つ人材育成

図 3 e-Knowledge コンソーシアム四国の組織

広報委員会はホームページ、リーフレット等のメディアによりコンソーシアムの活動を発信するとともに、他機関で実施されているe-Learningに係わる情報を収集し、コンソーシアムの活動改善に活かす。また、e-Learningを円滑に行うため、教員と積極的なコミュニケーションを図る。

外部評価委員会は事業活動の評価と助言を行う。平成23年度以降は外部評価委員会の構成を再検討する予定である。コンソーシアムの発展形として設立する地域サポーター会議は自治体、産業界・企業、経済団体、各種文化施設、NPO等の人々で構成する。個々の構成員、構成団体は、地域サポーターと呼ぶ。これら地域サポーター間でも各種連携を期待する。さらに、生涯学習教育や社会人の再教育に関わるe-Learningコンテンツの一部を地域サポータ

一会議と連携して作成予定である。コンテンツ出版委員会は、『四国学』をはじめとするコンソーシアムに蓄積された四国の特色や魅力を発信できるe-Learningコンテンツの出版企画を行う委員会として設立が計画されている。

5 まとめ

本稿では、四国の地域づくりを担う人材育成を目的に四国の8つの大学が連携したe-Knowledgeコンソーシアム四国(eK4)について述べた。eK4の現在の取り組みについては、コンソーシアムHP[1]を参照されたい。

参考文献

- [1] e-Knowledgeコンソーシアム四国,
<http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp>